

2008 年度 鉄道事業設備投資計画

安全対策、サービス向上、環境対策、輸送力増強などに総額 253 億円を投入

☆自動列車停止装置(ATS)の更新、車両への安全装置取付けを引き続き行います。

☆「Smile Train」30000 系を 22 両新造します。

☆バリアフリー設備や待合室の設置、駅舎の改良工事を進めます。

☆保谷駅をホーム 2 面化・線路 3 線化する工事を開始します。

西武鉄道（本社：埼玉県所沢市、社長：後藤高志）では、より安全で快適なサービスを提供し、人にやさしい鉄道を目指して、2008 年度は総額 253 億円を投じ、安全対策、サービス向上、環境対策、輸送力増強など、鉄道事業の設備投資を積極的に行います。

まず安全関連設備投資では、今年度も自動列車停止装置(ATS)更新、車両への安全装置取付等を中心に投資を行い、輸送の安全確保のための積極的な取り組みを行ってまいります。

また、新生・西武鉄道を象徴する新型通勤車両 30000 系（愛称「Smile Train」）を 22 両新造するほか、本年 6 月 14 日に相互直通運転を開始する東京地下鉄副都心線へ乗り入れを行う 6000 系車両の改造工事を引き続き行い、車両の内装リニューアルおよび車内ディスプレイ（Smile ビジョン）の設置を開始します。

次に旅客サービス投資では、快適なサービスを提供できる人にやさしい鉄道を目指し、今年度も駅舎の改良、ホーム待合室の整備、総合案内板の更新や LED 式列車案内表示器の新設などを積極的に進めるとともに、駅のバリアフリー化を国、地方自治体等の協力を得ながら進め、2010 年までに段差解消の必要な駅（1 日あたり乗降客数 5,000 人以上の駅：該当 75 駅）を整備し、人にやさしい駅を目指します。今年度は石神井公園駅、萩山駅の改良を実施することで、段差解消の必要な駅のうち 87%（2008 年度末で 65 駅整備）の駅にバリアフリー設備が設置されます。

輸送力増強としては、混雑緩和のために進めてきた池袋線・桜台（新桜台）～石神井公園間の高架複々線化事業のうち、残る石神井公園駅付近について引き続き工事を進めます。

詳細は別紙のとおりです。



本年 4 月 26 日にデビューした 30000 系

別紙

「2008年度 鉄道事業設備投資計画」

1. 安全関連設備投資

鉄道事業では、安全の確保を経営の最重要課題としてとらえ、鉄道事業者の責任として、自動列車停止装置（ATS）更新、省令変更に伴う車両への安全装置取付、列車非常通報装置および踏切支障報知装置新設などの安全対策投資に重点を置きます。

○自動列車停止装置（ATS）更新

既存の機能に加えて急な曲線、分岐器箇所等の制限速度に対しても、列車を自動的に減速、または停止させる機能を追加した装置への更新を引き続き行います。なお、今年度で車上設備の更新は完了します。

○車両への安全装置取付

省令の変更に伴い、運転士の異常時に列車を自動的に停止させる装置（E B装置またはデッドマン装置）、列車の速度やブレーキの状況等を把握するための記録装置（運転状況記録装置）、列車防護がより確実に行えるよう、電源が断たれても防護無線の電源を別系統に自動的に切り替える装置の設置を引き続き行います。

○ホーム安全対策

ホームからの転落事故に対する安全対策として、今年度は10駅に列車非常通報装置（非常通報ボタン）を設置する予定です。これにより今年度で列車非常通報装置および列車進入警報装置が全駅（小竹向原駅を除く）に設置されます。

○踏切事故防止対策

踏切上での異常を運転士へ知らせる踏切支障報知装置（非常ボタン）を52箇所の新設します。これにより全352踏切への設置が完了します。

○多摩川線武蔵境駅付近連続立体交差化

J R中央線高架化工事に伴い、東京都の都市計画事業として多摩川線武蔵境駅付近の高架化工事を2003年度より実施しており、高架化により西武線の踏切が3ヶ所なくなりました。引き続き、JR線との連絡ラッチ設置と駅部の2線化の工事を進め、JRとの授受線部分を除き、今年度完成の予定です。

○保谷駅ホーム2面化・線路3線化

現在、ホーム1面、線路2線の島式ホームである保谷駅を、2012年度に池袋線が東京地下鉄副都心線・東急東横線を介して横浜方面と相互直通運転を開始するのに合わせ、安全性・速達性・定時運転を確保するために保谷駅のホームを2面化、線路を3線化に改良します。改良による効果として、上りホームと下りホームがそれぞれ2面となることでホーム上のお客さまの輻輳が緩和され安全性が向上し、3線のうち1線（中線）を折返し線として使用することで、上下両方向への折返しが可能となり、遅延防止（異常

時の対応や東京地下鉄有楽町線・副都心線への乗り入れに対する影響防止)につながります。さらに、踏切の渋滞緩和や列車の車庫への出入による上り線支障の解消、運用の効率化が図られるなどの効果もあります。

○その他の安全対策

- ・池袋駅耐震補強
- ・転落防止放送装置の設置 2000系(13編成)
- ・ドアチャイムの取り付け 2000系(48両)

2. サービス向上

地域・社会の発展に貢献し、快適なサービスを提供できる人にやさしい鉄道を目指します。今年度も駅舎の改良、ホーム待合室の整備などを積極的に進めていきます。引き続き高齢のお客さまやお体の不自由なお客さまにも安心してご利用いただけるよう駅のバリアフリー化を国、地方自治体等の協力を得ながら進めていきます。また、ドアの上に液晶の車内ディスプレイ(Smileビジョン)を2画面搭載した30000系通勤車両の新造をはじめ、利便性の一層の向上を図るため、本年6月14日に相互直通運転を開始する東京地下鉄副都心線への乗り入れ車両6000系の改造工事を引き続き行います。なお、東京地下鉄有楽町線・副都心線に乗り入れる車両6000系の内装リニューアルおよび車内ディスプレイ(Smileビジョン)の設置を開始します。今後、東京地下鉄有楽町線・副都心線に乗り入れをする全車両を改造する予定です。

○駅舎の改良

・所沢駅

池袋線と新宿線が交差する当社線の要の駅でもある所沢駅の改良および駅周辺を「所沢スタイル(住み、遊ぶ、学ぶ、働く、健康的で多彩な生活が営まれるバランスのとれた生活地)」をコンセプトに一体開発を行い、当社のイメージアップならびに沿線の活性化を図り、「お客さまに選ばれる鉄道」を目指します。今後は、基本構想をもとに所沢市と協議を進め具体的な事業計画を策定します。

・椎名町駅

駅舎の橋上化を行い、南北自由通路・エレベーター・エスカレーター、および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度に調査・設計を行い、2009年度より工事に着手し、2012年度に完成予定です。なお、この事業は国および豊島区と共同で実施する、駅・まち一体改善事業により行います。

・江古田駅

駅舎の橋上化を行い、南北自由通路・エレベーター4基・エスカレーター9基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度より工事に着手し、2010年度に完成予定です。なお、この事業は国および練馬区と共同で実施する、駅・まち一体改善事業により行っています。

- ・野方駅

駅舎の橋上化を行い、南北自由通路・エレベーター3基・エスカレーター4基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度より工事に着手し、2010年度に完成予定です。なお、この事業は国および中野区と共同で実施する、駅・まち一体改善事業により行っています。

- ・久米川駅

東村山市の久米川駅北口駅前広場事業に合わせて東村山市と共同で、北口駅舎を建て替え、新しい北口駅前広場に面した出入口を設けます。また、北口の多機能トイレを改修し、改札外にエレベーター1基を整備してバリアフリー化を行います。

- ・狭山市駅

狭山市駅西口再開発事業に伴い、狭山市と共同で駅舎を橋上化し、東西自由通路を新設するとともにエレベーター3基・エスカレーター6基・多機能トイレ等を整備しバリアフリー化を図ります。今年度より工事に着手し、2010年度に完成予定です。

- ・西武立川駅

駅の南口開発に伴い、立川市と共同で、駅舎の橋上化および北口の開設を行い、南北自由通路・エレベーター3基・エスカレーター4基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。今年度は調査・設計を行います。

○駅設備のリニューアル等

- ・新桜台駅

練馬区から補助を受け、エレベーター3基、エスカレーター2基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。昨年度はエレベーターを2基設置しました。今年度は、エレベーター1基、エスカレーター2基および多機能トイレ等を設置し、年度内に完成の予定です。

- ・東久留米駅

昨年度は老朽化したホームの改修とホーム屋根の増設（10両分に延長）を行いましたが、2008年度は、老朽化している北口駅舎の撤去を行ったあとに、北口への連絡通路を設置します。連絡通路には商業店舗やエレベーター、エスカレーターを新たに設置し、旅客サービスの向上を図ります。

- ・西武新宿駅

新宿線の玄関駅である西武新宿駅を2007年度～2009年度の予定で改修を行いバリューアップを図ります。昨年度は、北口旅客トイレの改修等を行いました。今年度は、ホーム屋根、ホーム床の改修等を行う予定です。

- ・下落合駅

国および新宿区から補助を受け、跨線橋にエレベーター2基を新たに設置します。また、旅客トイレ

の移設・バリアフリー化改修および多機能トイレを整備し旅客サービスの向上を図ります。

・航空公園駅

関東の駅百選に選ばれている航空公園駅を昨年度から改修を行っております。昨年度は、ホーム屋根の増設（上り・下りホームを 10 両分に延長）、警告・誘導ブロックの貼替、エレベーターの更新を行いました。今年度は旅客トイレの改修、コンコースに LED 式列車案内表示器の設置、お客さまご案内用オープンカウンターの設置、太陽光発電システムの設置を行い完了します。

・萩山駅

エレベーター 4 基および多機能トイレ等を設置しバリアフリー化を図ります。また、ホーム屋根の増設（上り・下りホーム 10 両分に延長）、ホーム待合室の設置、旅客トイレの移設・バリアフリー化改修を実施します。なお、この事業は国と東村山市から補助を受けて実施する交通施設バリアフリー化整備事業により行っています。今年度完成の予定です。

○駅のバリアフリー化 等

整備施設	2008 年度整備駅
エレベーターの設置	石神井公園(4 基(仮設))、東久留米 (1 基)、新桜台 (1 基)、下落合 (2 基)、萩山 (4 基)
エスカレーターの設置	東久留米 (2 基)、新桜台 (2 基)
多機能トイレの整備	新桜台、下落合、沼袋、都立家政、萩山
お客さまご案内用オープンカウンターの整備	航空公園
傾斜型運賃表の整備	航空公園
点字運賃表の整備	新桜台

○ホーム待合室の整備

2004 年度よりホーム待合室の設置を進めておりますが、今年度は 10 駅に設置し、今年度末で 32 駅に設置されます。今年度以降も順次整備を進めてまいります。

<今年度設置駅（予定）>

清瀬（下りホーム）、秋津（上りホーム）、東飯能、横瀬、西武秩父、沼袋（上りホーム）、都立家政（上りホーム）、井荻（上りホーム）、東村山、萩山

○LED式列車案内表示器のコンコースへの設置

今年度は、東久留米・鷲ノ宮など7駅のコンコースにLED式列車案内表示器を増設します。これにより、ホームへ行く前に列車の時刻がわかるようになります。

○総合案内板の更新

駅に設置してある総合案内板をコーポレートマークを取り入れた新しい案内板に更新し、鉄道を利用するお客さまにとってわかりやすい案内表示に整備します。電飾の光源をLED化することにより、従来の蛍光灯と比較し表示の見やすさが大幅に向上するだけでなく、消費電力やCO₂排出量を大幅に削減することにより、地球環境へ配慮した総合案内板に更新します。

○案内看板の4ヶ国語表記

外国人のお客さまにも使いやすい駅施設とするため、観光地である本川越駅をはじめとした主要駅のきっぷ売り場・トイレ・出口案内などの案内表示を4ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）表記にいたします。

○AED（自動体外式除細動機器）の増設

救急蘇生法を実施できる体制を整え、急病のお客さまへの対応力を向上します。現在21駅に設置しておりますが、残りの70駅に設置し、全駅に設置が完了する予定です。

○旅客トイレリニューアル

老朽化した旅客トイレをリニューアル改修し、旅客サービスの向上を図ります。今年度は、秋津、下落合、新井薬師前、沼袋、都立家政、航空公園、萩山を改修します。

なお、下落合、沼袋、都立家政、萩山については、多機能トイレも整備します。

○自動定期券発売機の増設

自動定期券発売機を新たに21駅に設置し、お客さまへのサービス向上を図ります。今年度末で67駅に自動定期券発売機が設置され、係員定期券発売機の駅を含めると68駅にて定期券の購入が可能となります。

○30000系通勤車両を新造

老朽化した101系、301系車両の代替として「Smile Train ～人にやさしく、みんなの笑顔をつくりだす車両～」をコンセプトに設計した30000系通勤車両を120両新造する予定で、昨年度は24両（8両3編成）を新造しました。今年度は22両（8両2編成、2両3編成）を新造する予定です。

この30000系は、安全性・快適性に加え、ユニバーサルデザインや省エネルギー性にも配慮し、また、外装や内装のデザイン各所には当社各部から集まった女性、男性社員がプロジェクトチームとして関わり、お客さま目線の意見や感性を積極的に取り入れております。

なお、30000系通勤車両は、ドアの上に液晶の車内ディスプレイ（Smileビジョン）を2画面搭載し、1画面は「情報案内画面」として行先・次駅・乗換案内をはじめダイヤ乱れや他社線の運転状況などを表示し、

もう1画面は「広告画面」として動画広告を表示するなど、お客さまへさまざまな情報を提供します。

○相互直通運転車両対応工事（6000系）

交通ネットワークの一層の機能強化を図るため、本年6月14日に相互直通運転を開始する東京地下鉄副都心線へ乗り入れる6000系車両の改造工事を引き続き行います。今年度は5編成の改造工事を実施します。相互直通運転により、渋谷方面に乗り換えをすることなく行くことができるなど利便性が飛躍的に向上します。2012年度には東急東横線・横浜高速みなとみらい線への相互直通運転開始を予定しています。

○6000系車両の内装リニューアル・車内ディスプレイ（Smileビジョン）の設置

東京地下鉄有楽町線・副都心線に乗り入れる車両6000系の内装リニューアルおよび車内ディスプレイ（Smileビジョン）の設置を開始します。今年度は1編成を改造します。今後、東京地下鉄有楽町線・副都心線へ乗り入れする全車両を改造する予定です。

車内ディスプレイ（Smileビジョン）は30000系車両と同じく、ドアの上に2画面を搭載し、1画面は「情報案内画面」として行先・次駅・乗換案内をはじめダイヤ乱れや他社線の運転状況などを表示し、もう1画面は「広告画面」として動画広告を表示するなど、お客さまへさまざまな情報を提供します。

○2000系車両にフルカラーLED式案内表示器を導入

従来の3色のLED式表示器に比べ、昼間時の視認性が向上するフルカラーLED式表示器を導入します。今年度は24両（8両3編成）に設置します。

○2000系車両のバリアフリー化工事の推進

車いすスペースの設置、車内案内表示器の設置などのバリアフリー化工事を24両（8両3編成）に実施します。

○特急10000系車両の車内装備更新

特急10000系の座席および内装の更新、トイレの内装更新、洋式トイレの自動ドア化など車内装備の更新を行います。今年度は2編成を実施し、全11編成の更新工事が完了します。

○山口線8500系車両を設備改良

昨年度に続き、多客時の乗降をスムーズにするため座席の配置を変更するとともに、先頭車両部のドア付近につり革および握り棒を1編成に設置します。

○つり革の増設

お客さまに安全・快適にご乗車いただけるように、車両の出入り口扉付近につり革を増設いたします。今年度は216両を整備し、今年度末で934両に設置する予定です。

3. 環境対策

騒音、振動の軽減や省エネルギー化などの環境対策に従来から取り組んでおりますが、今後も環境対策を推進するため、太陽光発電システム、車両クーラーの取替などを積極的に進めます。

○太陽光発電システム

昨年度は、東長崎駅・武蔵藤沢駅・拝島駅に設置しましたが、今年度は航空公園駅の屋根上に太陽光を利用した発電システムを設置する予定です。今年度末で、一昨年度に設置した下井草駅を含め、5駅に設置される予定です。

○車両クーラーの取替

現在のクーラー冷媒として使用しているフロンがオゾン層を破壊するため、オゾン層を破壊せず、地球温暖化に対する影響が少ない代替フロンを使用したクーラーに置き換えています。今年度は48台の取り替えを行います。

4. 輸送力増強

○石神井公園駅付近高架複々線化工事

池袋線の高架複々線化工事については、1971年の都市計画決定以来、東京都、練馬区などと協力して工事を進め、2003年3月に、桜台（新桜台）～練馬高野台間が完成いたしました。

石神井公園駅付近については、2003年4月、国から連続立体交差事業の新規着工の採択を受け、2005年6月、大泉学園駅付近まで高架化を延伸する都市計画が決定されました。その後、関係機関との手続きを進め、2007年8月に工事着工し、昨年度は、高架橋構築のための仮線路工事を進めてきました。

今年度は引き続き、仮線路工事を進めるとともに、高架橋本体工事に着手します。

この事業が完成すると、線路の高架化により合計9ヶ所の踏切がなくなり、踏切事故や交通渋滞の解消が図れます。また、急行停車駅である石神井公園駅まで複々線化が延伸されることで、混雑緩和や所要時間の短縮が図れるとともに、石神井公園駅での乗り換えがスムーズになるなど、お客さまの利便性が向上します。

以上